

造影 MRI 検査を受けられる方への説明書

1. 造影 MRI 検査とは

造影 MRI 検査とはガドリニウムを含んだ薬を血管内に注射して行う MRI 検査で、病変の存在や性状などが造影剤を用いないときに比べてわかりやすくなることもあり、診断の助けとなることがあります。

造影剤を用いなくとも MRI 検査は行うことができます。同意いただけない限り検査は行いません。

2. 造影剤の副作用

検査に際しては、その時点での症状や以前にかかった病気、家族の方がかかった病気などに注意しながら安全に検査が行われるように努めておりますが、検査中あるいは検査後しばらくしてから下記の様な副作用症状が起きることがあります。

・軽い副作用(頻度は約 1～2%以下)

吐き気、嘔吐、頭痛、めまい、発疹、かゆみ、発熱、くしゃみなど

・重い副作用(極めてまれ)

まれにショックや呼吸困難、血圧低下、痙攣などが生じることがあります。死に至ったケースの報告もあります。

副作用は、検査時(即時型)から、時には数日後(遅発型)に生じることがあります。

以下の既往がある方は造影剤の副作用が生じる頻度が比較的高く、症状が強くでることもあり、造影検査を行わないこともありますので、お申し出ください。

- 今までに造影剤による症状を起こしたことのある方
- 気管支喘息などのアレルギー疾患のある方
- 他の薬に過敏症や蕁麻疹などのアレルギー歴のある方

なお、MRI 検査の依頼内容などをもとに検査担当医師が造影剤使用について判断します。よって、同意いただいても造影剤を使用しないこともあります。

3. MRI 検査を行えない場合

手術や他の治療によって磁性のある金属が体内にある場合など、造影の有無に関わらず検査が行えない場合がありますので、あらかじめお申し出ください。

例：心臓ペースメーカー、脳動脈瘤クリップ、磁石の入れ歯、入れ墨など

以上の説明をご理解いただいた上で、造影 MRI 検査に同意いただけるなら、別紙の同意書にご署名をお願いいたします。同意書に記入された後でも、いつでも造影検査を拒否していただいても構いません。

ご不明な点は、担当医師または放射線科にお問い合わせください。